

年齢	42	歳	性別	○男	女	初診	1978.8.21	作成日	2019.1.13
主訴	頭皮搔痒 5年 (P.177)								
病史	患者は頭皮の搔痒をすでに 5 年間も患っている。時に軽く時に重く、連綿として癒えることも無く、夜になると激しくなる。最近の 2 ヶ月は日増しに重くなっており、その痒さは受入れ難く、中薬や洋薬で治療をしたが、痛苦は耐え難い。既往としては糖尿病と動脈硬化の病歴を持っている。普段は体が冷えて寒く、四肢冷感があり、年中厚い衣類を手放せず、口淡で涎が多く、例えば寒涼のものや生冷のものを飲食すると更に症状は甚だしくなる。								
四診所見 (検査)	【望診・聞診・問診・切診】 ①患者形浮 ②面白唇淡 ③坐位不安 ④時々頭部を搔爬する ⑤痒くないところは何も皮膚の損害はない ⑥普段は体が冷えて寒く、四肢冷感があり、年中厚い衣類を手放せず ⑨口淡で涎が多く、寒涼のものや生冷のものを飲食すると更に症状は甚だしくなる								
舌診	⑩舌質：淡胖 ⑪舌苔：白膩								
脉診	⑫脉：緩滑								
病位弁証	【五臓：肝・心・脾・肺・腎】【六腑：胆・小腸・胃・大腸・膀胱】【奇恒之腑：脳・隋・骨・脉・女子胞・命門・精室】								
八綱弁証	【表証・裏証・半表半裏証】【寒証・熱証】【虚証・実証】【陰証・陽証】								
病性弁証	【氣病弁証】 氣虚・氣陷・氣滯・氣逆（肺氣・胃氣・肝氣）・氣随血脱・氣虚失血・氣血兩虚 【血病弁証】 血虚・血熱・血瘀・氣滯血瘀 【津液不足弁証】 【津液病弁証】								

病因弁証	【六淫弁証】 風・寒・暑・湿・燥・火 【七情弁証】 喜・怒・憂・思・悲・恐・惊 【飲食勞倦弁証】 傷食・中毒・過勞・過逸
病機	
証名	
弁証分析	
主要な 弁証類型	
治則治法	
配穴処方	
処方意義 (按語)	